



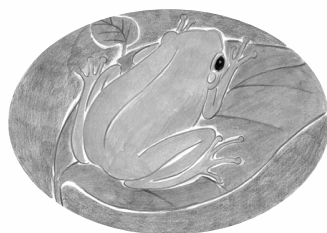
やれ<sup>う</sup>打つな 蠅<sup>はえ</sup>が<sup>て</sup>手をすり <sup>あし</sup>足をする

こばやしいつ さ  
小林一茶



あおがえる 青蛙 おのれもペンキ <sup>ぬ</sup>塗りたてか

あくたがわりゆうの すけ  
芥川龍之介



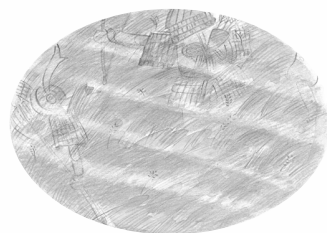
あり <sup>れつ</sup>列 蟻 <sup>くも</sup>雲の <sup>みね</sup>峰より つづきけん

こばやしいつ さ  
小林一茶



なつくさ 夏草や <sup>つわもの</sup>兵どもが <sup>ゆめ</sup>夢の <sup>あと</sup>跡

まつ お ばしょう  
松尾芭蕉





おんせい  
音声はこちら

# 慣用句

## 1年目 ステップ4

くち  
口がかたい

言<sup>い</sup>ってはならないことをむやみに他<sup>た</sup>言<sup>ごん</sup>しない。



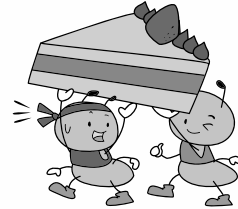
みみ  
耳<sup>みみ</sup>にたこができる

同<sup>おな</sup>じ事<sup>こと</sup>を何<sup>なん</sup>度<sup>ど</sup>も聞<sup>き</sup>かされて、もううんざりだと思<sup>おも</sup>うこと。



て か  
手<sup>て</sup>を貸<sup>か</sup>す

人<sup>ひと</sup>の仕<sup>し</sup>事<sup>ごと</sup>を手<sup>て</sup>伝<sup>つだ</sup>うこと。



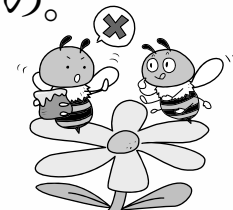
むし し  
虫<sup>むし</sup>が知<sup>し</sup>らせる

なん<sup>こ</sup>となく困<sup>こま</sup>った事<sup>こと</sup>が起<sup>お</sup>こりそう<sup>い</sup>な嫌<sup>いや</sup>な予<sup>よ</sup>感<sup>かん</sup>がする。



とら こ  
虎<sup>とら</sup>の子<sup>こ</sup>

大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>にしまっ<sup>て</sup>てい<sup>も</sup>て手<sup>もと</sup>元<sup>はな</sup>から離<sup>はな</sup>さないもの。





## 《品詞のうた》

ひん ひん ひん 品詞  
 単語を分類 それは品詞  
 品詞の種類は 全部で11  
 品詞の種類を 覚えよう



主語になるのは 名詞 代名詞  
 主語になれない 副詞 連体詞 接続詞 感嘆詞  
 述語になるのは 動詞 形容詞 形容動詞  
 付属語として 助詞 助動詞

ひん ひん ひん 品詞  
 品詞の種類を 覚えよう

名詞・代名詞

だれが 何が 〈主語〉

⋮

どんなだ。 どうする。 〈述語〉

動詞・形容詞  
 形容動詞

助詞・助動詞

それだけでは意味が  
 わからないことば  
 「です」「～は」「～を」など

副詞・連体詞

かざりのことば

接続詞

つなぎのことば

感嘆詞

気持ちやよびかけ、  
 へんじ など



おんせい  
音声はこちら

# ことわざ

## 1年目 ステップ4

なが みず くさ  
流れる水は腐らず

つね こうどう している もの てい たい  
常に行動している者は停滞することはないことの  
たとえ。



に かい め ぐすり  
二階から目薬

に かい かい か ひと め ぐすり おも  
二階から階下の人に目薬をさすように、思うよう  
に行かず効果のないこと。



きじ な う  
雉も鳴かずに撃たれまい

よ けい い い わざわ まね  
余計なことを言わなければ禍いを招かないですむ  
ことのたとえ。



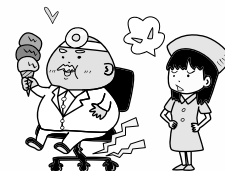
ひと しち じゅう ご にち  
人のうわさも七十五日

よ いう わさ も わる いう わさ も とき が た 経てば いずれは わす  
れ 去られるものだということ。



い しゃ ふ よう じょう  
医者の不養生

よく わか っている は ず の た ち ば ひと ひ と  
よくわかっているはずの立場の人が、自分では実  
行しないことのたとえ。



み ご た ま い ひ や く  
三つ子の魂 百まで

こ ども の ころ の せい 質 は その ま ま いっ しょう か  
子どもの頃の性質はそのまま一生変わらないもの  
だということ。





わが庵は  
都のたつみ  
世をうぢし  
山とかぞ  
人住む  
はいふなり

(喜撰法師)

天の原  
ふりさけ  
三笠の山に  
ば  
出でし月かも  
春日なる

(阿倍仲磨)

